資料1

原子力リサイクルビジネスに関する進捗状況について

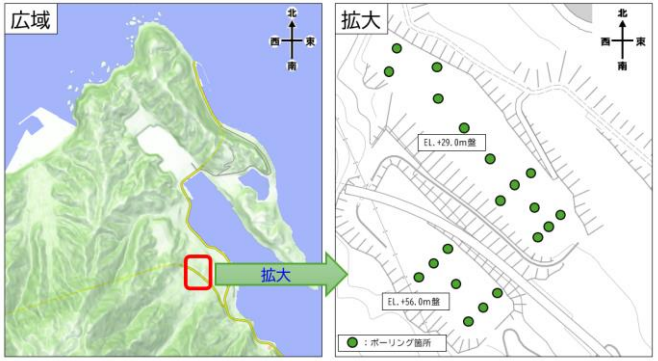
令和８年１０月２０日

福井県

１．クリアランス集中処理事業の進捗状況【操業に向けた取組み】

現在の取組み内容

- **建設予定地の決定**
  昨年度から実施してきた地質調査の結果、
  施設建設に係る支障が無いことが確認できたため、
  敦賀市浦底を建設予定地として決定



出典：地理院地図Vectorをもとに作成
（左図：標準＋陰影図、右図：淡色地図）

地質調査実施箇所（ボーリング調査地点）

今後の予定

- **福井県原子力リサイクルビジネス準備株式会社の社名変更（事業許可申請までに）**
- **原子力規制委員会への事業許可申請（令和９年予定）**
  施設設計や地質調査等の結果を踏まえ、準備が整い次第、
  原子力規制委員会へ事業許可申請を行う
  申請に当たり、会社名を正式なものに変更する

- **施設の建設、クリアランス認可の取得（事業許可後）**
  施設の建設、各種試験、試運転等を行い、原子力規制委員会から
  クリアランス測定方法の認可を受け、操業を開始する

２．地元企業の参入促進活動

現在の取組み内容

- **人材育成研修の実施**

  クリアランス集中処理事業へ元請として参画を希望する地元企業に対して、元請業務に必要となる知識・技術に関する研修を実施

  ・品質管理や工事管理に係る机上研修

  ・元請業務を行っている企業のもとでのＯＪＴ研修

今後の予定

- 実施した研修について地元企業の理解度や研修内容のニーズを把握し、次年度以降の研修に反映する
- ＯＪＴ研修に参加した企業へのヒアリング等を踏まえ、次年度のＯＪＴ研修に反映する

3．地域住民向けの理解促進活動

現在の取組み内容

➢ 地域住民の理解促進活動

地域住民の理解促進を目的に、嶺南各市町の地域住民および嶺北・嶺南の高校生がクリアランスについての理解促進活動を実施

- 地域住民や高校生で構成するステークホルダーグループ（ＳＨＧ）が主体となり、廃止措置やクリアランス物の再利用に対する理解促進活動を実施する
- 高校生・地域住民ＳＨＧが、クリアランス金属を再利用した消費財（ハンガー・ティッシュボックス）を用いたモニター実証や、新たな製品の製作を行う



大飯発電所を見学する高校生の様子



昨年度の活動報告会の様子

4．大型廃棄物処理事業・新たな廃炉ビジネスの検討

現在の取り組み内容

➢ 実現可能性等に関する調査の実施

大型廃棄物を処理する事業および新たな廃炉ビジネスについて、実現可能性および地元企業の参入可能性に関する調査を実施

大型廃棄物処理事業

- 発電所内での解体・処理が困難な蒸気発生器等の大型機器を抽出し、解体にあたり必要な技術や設備、地理的要件等の整理を行い、ビジネスモデルが構築できるか実現可能性調査を実施
- 構築したビジネスモデルに対して地元企業の参入可能性について調査を実施



蒸気発生器（出典：Cyclife groupe EDF）

新たな廃炉ビジネス

- 廃止措置の進展に伴い発生する放射能汚染状況調査や、鉄以外のクリアランス物の処理について、事業内容や事業規模、地理的要件等の整理を行い、ビジネスモデルが構築できるか実現可能性調査を実施
- 構築したビジネスモデルに対して地元企業の参入可能性について調査を実施